大雪山の素顔（だいせつざんのすがお）

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

「花のリレー」の季節になりました

旭岳は北海道最高峰として知られる一方で、本格的な登山をしない人でもロープウェーを利用して高山植物が見られる山として人気です。この季節、多くの人が姿見の池や夫婦池周辺に広がるお花畑に感動しています。

大雪山の花の季節は短いですが、高山植物は種類によって少しずつ開花時期が違い、その順番は毎年ほとんど変わりません。

６月の姿見平では、例年展望台周辺など雪融けが早い場所で「ミネズオウ」「メアカンキンバイ」がいち早く開花します。また「キバナシャクナゲ」や「ジムカデ」は、つぼみを持ったまま越冬し、雪融けから短期間で開花します。

白い花が人気の「チングルマ」は、周囲より融雪が遅い場所に生育します。遅い雪融けから15~20日以上かけて若葉とつぼみを伸ばし、例年７月上旬に花数が増えます。

今年の姿見の池や夫婦池周辺は例年より雪融けが早く、昨年は６月半ばに見られた風景も今年は６月初めでした。さて７月は？（昨年７月７日の鏡池）

「コガネギク」や「エゾオヤマリンドウ」は、数十日かけて草丈が伸び、盛夏から初秋の７、８月の時期に開花します。

もしこのような「花のリレー」がなく、同時に咲いてしまったら？　花粉を運ぶ昆虫の数が足りず、種子ができないかもしれませんね。昆虫にとっても、花の蜜を得られる期間が短過ぎて困りそうです。人の目に美しい「花のリレー」は、他の生き物にとっても重要なものに思えます。

大雪山では、訪れる人も稀だった昔から、さまざまな個性を持つ動植物が生き続けてきました。現在は交通手段も整備され、山の美しさを体験しやすい時代です。

その一方で温暖化や外来生物、過剰利用など、人の生み出したさまざまな問題で高山の生態系に及ぼす影響も心配されています。単純な解決方法はありませんが、目の前の自然をよく見ることは「この先やること、やらないこと」を選ぶために大切だと思っています。

旭岳ビジターセンター　田上千尋

俳句

薄暑なり深き絆の里に住む　杉山りつ
天体の不思議な闇よ夏の朝　山口佐知子
新緑やカーラジオから宗次郎　若田久
高枝の届かぬ夢かさくらんぼ　高瀬潤
父の日の父がもてなすイタリアン　石澤清宏
短夜や指揮のいらない大合唱　澤田久美子
父の日や昭和を生きし亡父しのぶ　松山蓉子
父の日の願ひは皆のそろい顔　三島智
君生れし日はさくらんぼの実る頃　若田郁
手に穂草ふれて聲なき父の日は　秋山深雪
石楠花のうすき花びら濡らす雨　長谷川きみゑ
目でものを言い返す子や夏薊　小林ろば
重なりて紫陽花のかげ踏み過ぎぬ　高橋公花
父の日や一言添えてゆうパック　杉山ひろのり
父の日のふるさとの風ニッカ黒　保科なほ
見上げては帽子で受けしさくらんぼ　徳光吐苦